

## 知的障害児(者)施設における安全教育および安全対策

### —事故およびヒヤリ・ハットの実態—

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻 修士課程 秋山さやか

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 田口 豊郁

#### 【要旨】

社会福祉現場は、利用者にとっては生活の場であり、職員にとっては就労の場である。さらに、福祉マンパワーの養成のために、多くの実習生も関わっているため、安全に対して様々な意識レベルの人たちが社会福祉現場の中で行動している。すなわち、社会福祉現場の日常の中に事故発生の可能性が潜在している。本研究は、社会福祉施設の中の知的障害児(者)施設に着目し事故及びヒヤリハット体験の実態の把握を目的とした。

#### 【方法】

川崎医療福祉大学で社会福祉士実習を行った4年生601人(2003~2005年)に対してのアンケート調査(実習中の事故及びヒヤリハット体験)のうち、知的障害児(者)施設に行った104人のデータを解析した。また、「福祉サービス事故事例集」(2000年全国社会福祉協議会)から、事故例を抽出・解析した。

#### 【結果および考察】

##### (1) 実習中に体験した事故

事故の体験は、合計103件であった。事故の被害者は、利用者(70件) > 実習生(30件) > 職員(3件)であった。また、加害者別では、利用者(62件)

> 実習生(19件) > 加害者なし(17件)であった。

##### (2) 実習中のヒヤリハット体験

ヒヤリハット体験は96件だった。場所別に見ると、上位3位は、廊下(13件) > 居室(13件) > ホール(11件)であった。また、加害者別上位3位では実習生(43件) > 利用者(32件) > 加害者なし(12件)であった。

社会福祉サービス事故事例集による事故体験事例は、利用者による事故が一番多く、その内容は、利用者同士の事故、自傷行為などであった。利用者の中の事故の中には、てんかん発作や、その他の発作が原因で起こる事故があった。

老人福祉施設の実習中の事故事例と比較すると、知的障害児(者)施設では、自損事故および利用者同士の事故が多いこと、さらに、職員や実習生が被害者になる場合が多かった。知的障害児(者)施設での安全を考える際、職員及び実習生自身の安全確保に加え、利用者の安全確保に重点を置く必要がある。知的障害児(者)施設の職員に対して、知的障害の特性を加味した危険感受性を養うための安全教育が重要である。